



# コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



ワサビの花 4月がピーク



よく育った鮮やかでみずみずしいワサビ



ワサビ田で笑顔の北村さん。田には神鍋の溶岩を砕いた石が敷かれ、ワサビはその石に根を張る

**100パーセントオリジナルを目指し  
あえて非効率な農業にこだわる元気人**  
300年近く続くワサビ農家を受け継ぎ、その味と香りで人々に感動と幸せを与える元気な男性を紹介します。

北村宜弘さん(35歳) 日高町十戸

神鍋山の麓。とどまることなく湧き出し流れ続ける名水「十戸の清水」。その自然からの恩恵を受け一面に緑の葉を広げるワサビ田。300年の長きにわたり受け継がれ、つながってきた歴史と伝統がそこにありました。

## 300年の歴史と伝統を受け継ぐ

「生きものは皆何かとつながっている。そんな当たり前のことを当たり前に感じさせてくれる、それが農業です」と話すのは、300年近く続く「北村わさび」の5代目、北村宜弘さん。

幼いころからワサビ田を遊び場にして育った北村さん。今でこそ家業にプライドを持ち、やりがいを感じています。が、そこに至るまでにはいろいろな葛藤がありました。

大学進学のため都会へ出た北村さんは、国会議員秘書や当時、最先端のIT関連企業で営業を経験しました。さまざまな刺激を受け、外から客観的に豊岡を見ることができた北村さんは「田舎では当たり前前のことが都会では素晴らしいことであることが分かり

## 今の自分があるのは家族のおかげ

24歳でワサビ田に戻ってきた北村さん。農業の厳しさは分かっていたつもりでしたが、ワサビ田の小石に生えたコケを黙々とむしるばかりの毎日にも何も見いだせず、神戸へ脱出。「何も言わず好きにさせてくれた両親に感謝しています」と北村さんは笑います。

覚悟を決めて再度ワサビ田に戻り家業を継いだのは28歳のときでした。ワサビを広く知ってもらうため、そして自分自身と向き合うために、まずホームページを作りました。水が支配する作物であるワサビ。33アールの田に流れ込む十戸の清水は常に12〜13度に保たれ、ワサビはその水のミネラルと酸素で育ちます。野菜の種の大半が輸入に頼り工業化している中で、「北村わさび」は50年も前から種を取り続け、苗も100パーセント自給しています。種取りから収穫まで約3年。試行錯誤を繰り返しながら、非効率な農業を



▲子どもと遊ぶ時間がリフレッシュタイム。充実のホームページは必見  
<http://kitamura-wasabi.com/>

ました」と目を輝かせます。  
続けています。「手間を掛けることにより、そこから感じる学ぶことがたくさんあります。それが自分の可能性につながると信じています。今、時代は何を求め、何に幸せを感じているのかを見極め、食べることで心が満たされる、そんなワサビを作りたいと思います。現在、在来品種の存続や発掘に向けた活動をしています。地域の歴史や文化、風土に根ざし、先人の努力の結晶である種を守り育てたいです」と北村さんは意気込みます。  
**「なにかを伝えること」**  
そして北村さんは「湧水を感じ、農に触れ、風味と一緒に農業の内側にある価値を伝え、互いに学び合える空間(場)を作りたいと思っています。人も種も水も長いつなりの一部であることを伝えつないでいきたいです」と夢を語りました。

広報マンがやってきた!

幼稚園編

15

# 清滝幼稚園

(日高)

〈園児14人〉



山々に囲まれた自然豊かな清滝幼稚園では、年間を通じて、清滝・西気両保育園との交流を盛んに行っています。

2月28日、4月から入園予定の子どもたちを招いて「お迎え会」が行われましたので、その様子をのぞいてみました。

## 心を込めてお出迎え!

「お迎えする気持ちを大切に!」と先生の話聞いた園児たちは、少し緊張しながら「ゲスト」の到着を待ちます。

ゲストが来ると、園児たちは元氣いっぱいにお出迎え! かつばや上着を

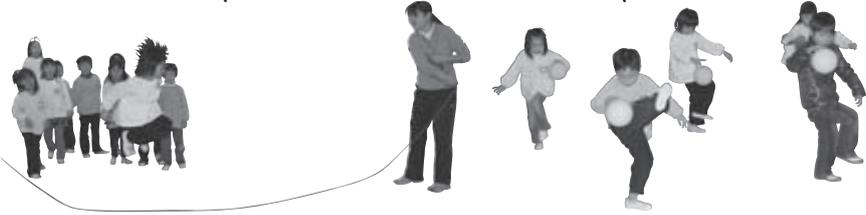
預かってハンガーに掛けてあげたり、上靴を履かせてあげたり…。今日一日は、みんな、お兄さん、お姉さんです。



## こんなことが出来るよ!

「お迎え会」が始まると、園児たちは、幼稚園に通ってから学んだことを、力いっぱい披露しました。

ボールをついたり、縄跳びや側転をしたり…。いつも以上の出来栄え(?)に、園舎の中は笑顔と拍手でいっぱいになりました。



## こんなところだよ!

一緒にダンスをした後、園児たちは園舎の中を案内しました。

「ここは、帳面を置くところ!」、

「正しい絵

本の入れ方はこうだよ!」、これが、お道具箱の中身!」など…。これで4月以降も安心です。



## 心を込めた贈り物

会の最後に、園児たちは手作りのかばんを一人一人にプレゼント! 「ありがとう」と言われると、少し照れくさそうに「どういたしまして」と答えていました。

ゲストが帰ると、少しホッとした園児たち。4月からは自分たちも小学1年生です。お兄さん、お姉さん、しっかりとがんばってね。



# 笑顔の輪

明るく爽やかに仲間同士の触れ合いを

## 『スポーツダンス・さくら会』(豊岡)

まだ寒い冬の体育館の中でも、そこには春の花が咲いたような明るく元氣なダンスの練習風景があります。

スポーツダンス・さくら会は、現在、20人が所属する社交ダンスサークルです。毎週火曜日午前10時から2時間、県立但馬文教府(冬季は日高文化体育館)で、楽しく練習に汗を流しています。

会の設立は「同じやるなら基礎からしっかりと」と、ほぼ初心者6人が、プロのダンサーに指導を依頼して平成18年5月に結成しました。代表を務める松本敏克さんは



▲シルバーダンスのつどいに向け猛練習する会のメンバー

「素敵な音楽を聞いて体と頭を使う。スキンシップも凶れ若返ります」と笑います。

国内の社交ダンスは、インターナショナルスタイルが主流で、ワルツ・タンゴなどのスタンダードと、ルンバ・サamba・チャチャなどのラテンアメリカンの計10種類あります。練習では、全種類のダンスに果敢にチャレンジしています。そして、発表の場として毎年、シルバーダンスのつどいに参加したり、同会主催のダンスパーティー(4月10日(日)午後1時30分から日高文化体育館で開催。参加自由)を開催したりしています。

「皆さん、ダンスも音楽も大好きで、とても活氣があり元氣です」と話すのは指導者の福林愛美子さんと林 真太郎さん。松本さんは「若い方に社交ダンスの楽しさを伝えて入会してもらい、会を継続させたい」と意気込んでいました。入会希望は、松本さんまで。

☎090-11672-15388